

3-5 生ごみ、し尿、浄化槽汚泥を原料にしたバイオ液肥 (真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合)

岡山県真庭市 2023年5月時点

食品残渣

液肥

管内

- 真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合は、真庭市内の生ごみ、し尿、浄化槽汚泥を活用し、バイオ液肥として再生し活用。

■国内資源の種類 ■肥料の種類・肥料名称

・真庭市内の
生ごみ
し尿
浄化槽汚泥

- ・工業汚泥肥料(汚泥肥料)
- ・肥料名: まにくるん
- ・有機物を分解しメタンガスを作る過程で発生する消化液を活用。

■作物 ■主成分の含有量(%)、特徴等

・水稲

N	P	K	C/N比
0.5% 未満	0.5% 未満	0.5% 未満	3

・2023年2月採取分の分析値
窒素0.34%、リン酸0.06%、カリ0.21%

■取組の経緯・内容・成果(見込み)

取組の経緯

- ・岡山県真庭市久世地区は、2014年から廃棄物処理コストの削減と市内の有機性廃棄物の再資源化、循環型社会の実現を目指し、生ごみ、し尿、浄化槽汚泥をメタン発酵し消化液を液体肥料「バイオ液肥」として再生し活用する実証に取り組んできた。

取組の内容

- ・バイオ液肥を利用する農業者で「真庭液肥研究会」を組織している(会員数約40名)。令和4年度には水稲生産者が約18haに散布を行った。

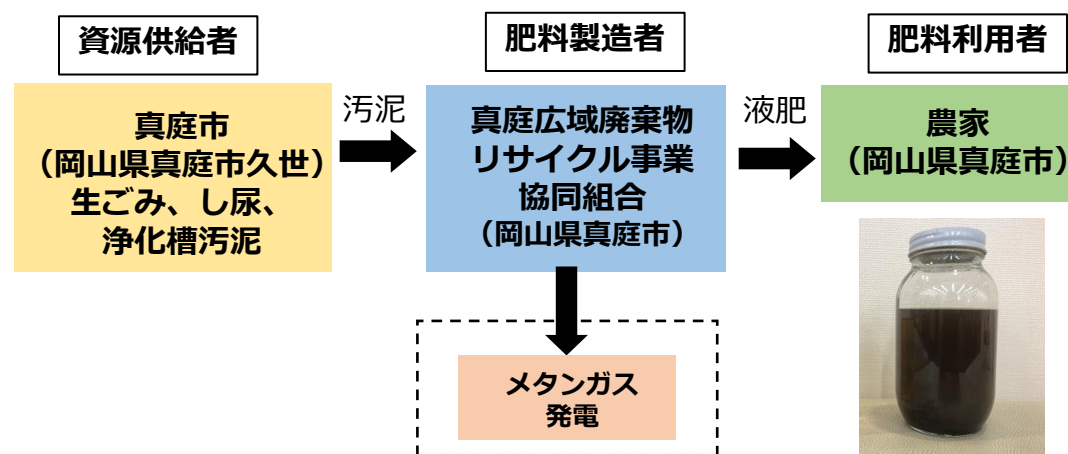
成果(見込み)

- ・バイオ液肥の利用(水稲では元肥)により化学肥料の使用低減につながり栽培コストの削減になっている。

化学肥料使用量 導入前約100kg → 導入後0kg

肥料コスト 導入前19,492円 → 導入後10,000円

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■今後の課題・取組

- ・バイオ液肥だけではなく、市内の有機資材(牛ふん堆肥等)を活用し、生産コストの低減を図りながら高品質な農産物を生産していく必要がある。また、生産された農産物に「循環」をキーワードに付加価値をつけ地産外商で収益を上げ持続可能な農業を目指していく。
- ・現在、市内全域の生ごみ、し尿、浄化槽汚泥を液肥に再資源化できる「生ごみ等資源化施設」、「バイオ液肥」を効率的に運搬散布するために濃縮する「バイオ液肥濃縮施設」の整備を進めており2024年秋稼働の予定である。

